

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和5年度農作物病害虫発生予察情報について

令和5年度農作物病害虫発生予報第10号を発表したので送付します。

令和5年度農作物病害虫発生予報第10号

令和5年10月2日
徳 島 県

I. 果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月第6半旬の温州ミカンの巡回調査では、発生圃場率が62.5%、寄生葉率が4.3%と、平年(57.5%、4.2%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

カキ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が16.7%、発病果率が0.4%)。

(2) 7月第6半旬に行った新梢における発病調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(3) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 9月から11月の降雨は果実の被害を助長するため、発病果が認められる場合は、薬剤による追加防除を行う。

フジコナカイガラムシ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%、寄生果率が1.8%と、平年(43.3%、1.7%)並

の発生である。

(2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 密度の高い園では、2回以上の防除が必要である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月の予察灯調査において、勝浦町での誘殺数は、各種カメムシともに、平年に比べてやや少なく推移している。一方上板町では、ツヤアオカメムシは平年に比べてやや多く推移しているが、チャバネアオカメムシは、平年並に推移している(表1)。

(2) 9月第6半旬におけるカキの巡回調査では、発生圃場率が33.3%、被害果率が0.5%と、平年(16.7%、0.3%)に比べてやや高い。

(3) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。

(2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年
9	1	11	3	53	9	16	17
	2	21	10	77	15	0	17
	3	55	16	61	27	12	21
	4	41	14	65	36	22	11
	5	8	40	151	53	52	27
	6		25	153		39	54
10	1		25	222		35	66
	2		2	179		0	37

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年
9	1	72	203	113	87	54	57
	2	62	142	184	49	16	42
	3	58	189	102	42	23	31
	4	52	65	127	41	12	13
	5	17	133	216	12	6	15
	6		53	112		2	8
10	1		66	185		7	19
	2		3	109		2	6

II. 野菜

アブラナ科野菜共通

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が20.0%と、平年(58.7%)に比べてやや低く、寄生株率は2.7%と、平年(9.5%)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が33.3%、10株当たり寄生幼虫数及び蛹数は0.3頭と、平年(12.8%、0.1頭)に比べてやや多い。
- (2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が46.7%、寄生株率が4.3%と、平年(35.9%、4.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努める。

モンシロチョウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が20.0%と、平年(8.3%)に比べてやや高く、10株当たり寄生幼虫数は0.5頭と、平年(0.0頭)に比べて多い。
- (2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 若齢幼虫時の防除に努める。

秋冬ネギ

黒斑病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、発病度は0.1と、平年(12.2%、0.2)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、定期的に薬剤を散布して予防する。
- (2) 肥切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が3.3%、寄生株率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギアザミウマ

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、被害度が3.2と、平年(34.4%、1.6)に比べてやや高い。
 - (2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

シロイチモジヨトウ

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、寄生株率が2.4%と、平年(53.3%、5.3%)に比べてやや低い。
 - (2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、発生初期に徹底防除する。
 - (2) フェロモン剤の交信攪乱効果は、設置後3か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギハモグリバエ

- 1) 予報内容
発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が63.3%、被害度が9.4%)。
 - (2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
 - (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

冬春イチゴ

炭そ病

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では発生圃場率が9.1%と平年(7.6%)並の発生であるが、発病株率は0.3%と、平年(0.1%)に比べてやや高い。
 - (2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 台風の通過が予想される場合は、予めネットで苗を覆うなど物理的な傷みを防ぎ、通過後は必ず薬剤で予防しておく。

ハダニ類

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が9.1%と、平年(14.1%)に比べてやや低く、寄生株

率は 0.2%と、平年(3.1%)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、9月第1半旬から第4半旬にかけ、平年に比べてやや少なく推移していたが、9月第5半旬には、平年並の誘殺となった(図1)。
- (2) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が73.3%と、平年(43.1%)に比べてやや高いが、寄生株率は7.7%と、平年(5.7%)並の発生である。
- (3) 9月第6半旬における冬春イチゴの巡回調査では、発生圃場率が36.4%、幼虫寄生株率が1.5%と、平年(16.7%、0.6%)に比べてやや高い。
- (4) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

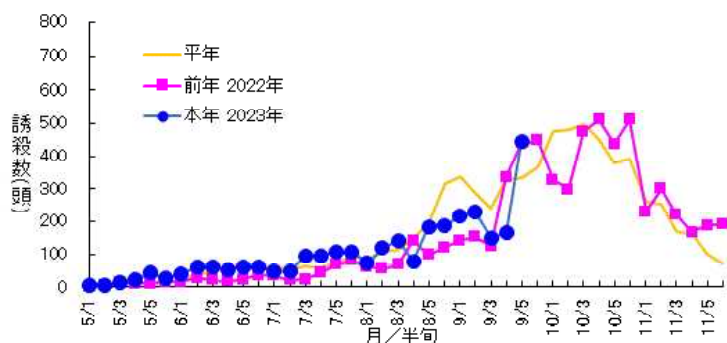


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

※徳島市、石井町、阿波市、吉野川市、東みよし町、三好市の9地点平均

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、9月第1半旬から第3半旬にかけ、ほぼ平年並で推移していたが、9月第4半旬以降は、平年に比べてやや多く推移している(図2)。
- (2) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が46.7%、寄生株率が4.3%と、平年(35.9%、4.2%)並の発生である。
- (3) 9月第6半旬における秋冬ネギの巡回調査では、発生圃場率が22.2%、寄生株率が2.4%と、平年(53.3%、5.3%)に比べてやや低い。
- (4) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

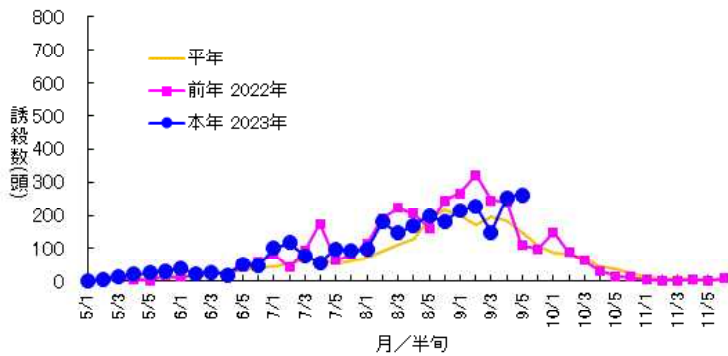


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
*徳島市、石井町、阿波市、吉野川市の7地点平均

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、9月第1半旬から第4半旬にかけて、ほぼ平年並で推移していたが、9月第5半旬には、平年に比べてやや多い誘殺となった(図3)。

(2) 高松地方気象台が9月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

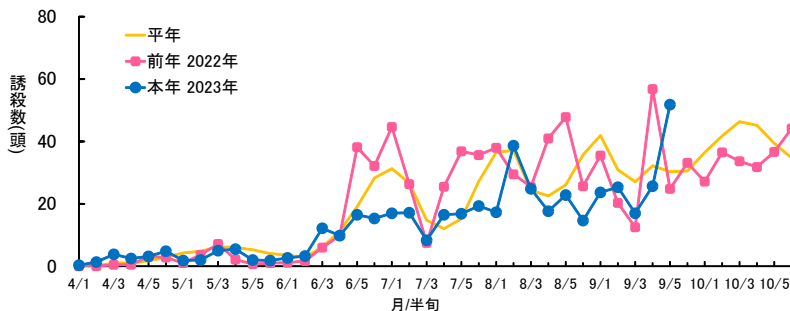


図3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移
*阿波市・三好市・東みよし町・石井町の6地点平均

III. その他

1. ハスモンヨトウをはじめとする食葉性害虫等の発生が多くなる時期である。野菜類の定植後には圃場を見回り、発生を確認したら速やかに防除すること。

2. 薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。